



名古屋市最高峰「東谷山」のふもとにあり市街地をながめる「もりやま」支部援農先「天空のアグリパーク」で開催されたブルーベリーのつみとりイベント

- ◇ なごやか農楽会からのお知らせ
 - ～ 研修会の中止 ～
 - ～ 会費未納の方 農楽会会費振込のお願い ～
- ◇ 援農作業予定 (9～11月)
- ◇ 援農作業実績 (5～7月)
- ◇ 農家さん紹介／あいちの伝統野菜など

なごやか農楽会からのお知らせ

なごやか農楽会 本年度の研修会中止について

本年度の研修会は、「名古屋の生鮮食料品基地、名古屋市中央卸売市場見学」9月実施で計画してきましたが、コロナ感染症が収まらない状況で3密を避けた状態での開催はむつかしく、卸売市場内の見学もかなり制限される状況なので本年度の研修は中止としました。

なごやか農楽会からのお知らせ

本年度会費未納の方 会費振込のお願い(重要)

全ての会員に会費(1,000円)の振込み(ゆうちょ銀行(振替))をお願いしております。

ゆうちょダイレクト(インターネットバンキング)・ゆうちょ銀行口座からのATMでの振替が振込費用が安くてきます。

ゆうちょ銀行口座から振替も利用できます。

会費未納の方お手数をおかけいたします。

よろしくお願いいたします。

なお、ゆうちょ銀行の自分の口座以外からの振替の場合振込人名がわかるようにご依頼人名欄になごやか農楽会会員のお名前を忘れずにご記入下さい。

振込(振替)先等は次のとおりです。

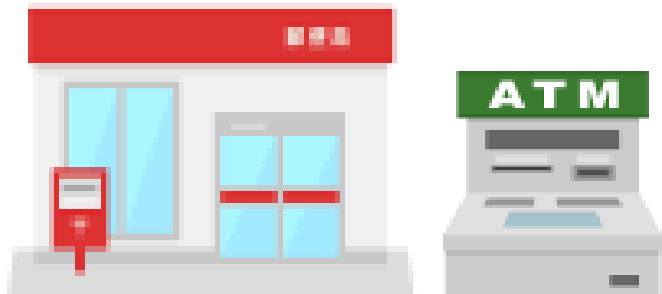
振込先：ゆうちょ銀行(記号12100)記号・番号の場合

口座名：なごやか農楽会

種類：普通預金口座(番号68446931)

(他銀行からは、店番218—普通預金6844693)

ご自分のお名前も忘れずに



評議会報告

報告・審議・検討事項の概要

5月度会議(開催中止)

6月度会議(6月13日開催)

(1) 2020年度農楽会会員異動状況(5月末現在) 会員数 186名(てんぱく81名、みどり44名、もりやま39名、港・中川22名) 再入会依頼(1名)あり(天白支部)

(2) 研修について

今年度の研修を9月に行う予定ですが、研修先である名古屋中央卸売市場がコロナ対応についての方針を7月に決めるとのこと。次回その結果を報告する。

(3) 書面表決結果等について

95名から提出があり、提出率は55%と過半数を超えた。議題毎の賛成率、みなし賛成率は、96.8%以上となり、承認を頂いた。

(4) 評議会開催日について説明(第2土曜日、農業センター2階が原則)。育成講座の関係で、2月は第1土曜日、梅まつりの関係で3月の会場がてんぱく社会福祉協議会となることを説明した。

(5) その他

立道会長から次の提案あり。

同じ会員が何回も援農に参加するのでなく、多くの会員が参加する、参加できるようにしたい。援農実績もその辺りが把握できるようにならないか。事務局長より少し観点が違うかと思うが、入会1年目に援農に参加するかしないかが重要と思っている。1年目に参加しなかった会員が2年目、3年目に参加するかといえませんが、無理。ますます参加出来なくて、結局3年目頃に退会してしまう。そんなケースが多いように思う。だから、1年目に背中を押すような取り組みが必要と思っており、各支部で取り組んで欲しいとお願いしている。

7月度会議(7月11日開催)

(1) 研修の実施について

研修受入れ先のコロナ感染対策のため、市場に入って見学する機会が少ないこと等から今年度の研修は中止とする。

(2) 2020年度活動予定について

農業まつりの開催について農楽会としての準備が必要であり、農業センターに開催するかどうかを早めに連絡頂けるようお願いする。(後日中止の決定の連絡あり)JAとの打合せについて今年度はJAなごや様と打合せを行う予定である。農業センターにも参加頂き3者による打合せとなるため、実施時期について農業センターと調整する予定です。

(3) 20周年記念行事準備・実行委員会メンバー等募集について

7月15日で募集を締切る予定。現在4名から応募あり。17期~19期の会員(ボランティア活動に関する意識・希望:農業センター実施にて参加意向のある方)に事務局から参加依頼を行うことを審議し、実施することとした。また評議会メンバーからの推薦もお願いする。

(4) 2018年度援農実績について

前回の評議会でも案内した2018年度援農実績について説明した。会員169名、援農回数2280回であり、一人平均13.5回の援農参加です。

このデータを参加回数の分布、期別の参加回数分布、男女別の参加回数分布で状況を比較した。今年度はこのデータを元に援農参加について色々な議論を行っていくこととする。

(本文は、なごやか農楽会ホームページの会員のページにあります)

援農作業予定 (9～11月)

てんぱく支部



みかんの収穫

9月
ニンジンの間引き

10月
サツマイモのつる切り・収穫

11月
タマネギの植付け
ミカンの収穫

みどり支部



さつまいも畑

9月
トマト苗定植、サツマイモツル返し
野菜収穫（空芯菜など）

10月
トマト苗定植、トーン散布、下葉かき
サツマイモツル切り

11月
トマト苗定植、下葉かき、脇芽とり
園児サツマイモ掘りの手伝い

援農作業予定 (9～11月)

もりやま支部



援農作業の合間のひととき
～農家さんを囲んで～

9月

さつまいも掘り、畑整理
ワイン用ぶどうの収穫
カラス対策用ネット・ビニール外し
梅の剪定、堆肥施肥

10月

野菜収穫、草とり、畑整理
ぶどう蔓切り、枝切り、カラス対策撤去
堆肥・もみがら運び、ブルーベリー剪定

11月

野菜収穫、畑整理
ぶどう蔓切り、誘引テープ外し
もみがら蒔き、梅剪定

港・中川支部



ジャガイモの畝

9月

カブの播種
ジャガイモ植え付け用の畝づくり

10月

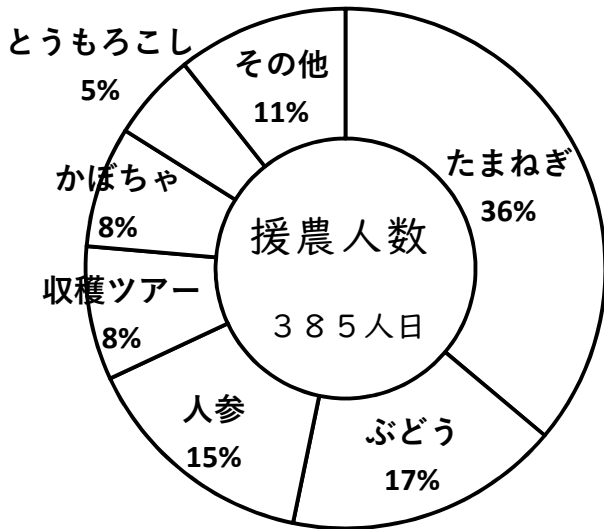
小カブの定植
小松菜、ダイコン、ほうれん草の播種
さつまいも収穫体験手伝い

11月

赤・白カブ、水菜、ソラマメの苗植え
ブロッコリーの収穫と袋詰め
さつまいも収穫

援農作業実績 (5～7月)

てんぱく支部



1人日=1人1日3時間の援農作業

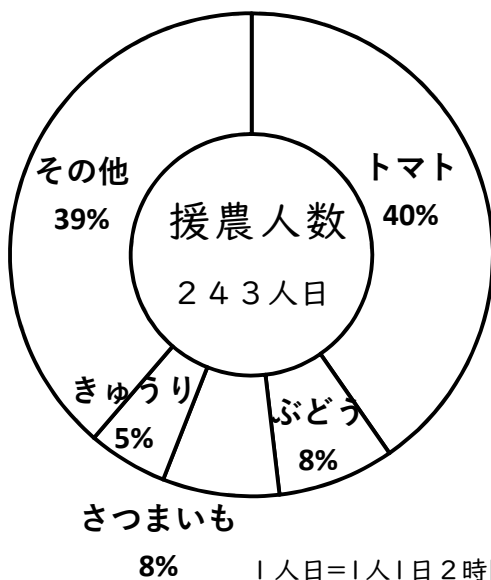
三か月間（5月～7月）の援農実績は、245人日。
 累計（2月～7月）は385人日。
 三か月間の援農先は、6農家。
 援農作業は、玉ねぎ収穫・皮むき、ブドウの花切り・玉抜き・袋掛け、とうもろこし植え・土寄せ、カボチャマルチめくり・藁広げ、収穫、みがき、収穫ツアー等。

昨年同期（5月～7月）の援農実績 227人日
 昨年の累計実績は、358人日



ぶどうの袋かけの風景

みどり支部



1人日=1人1日2時間の援農作業

三か月間（5月～7月）の援農実績は、123人日。
 累計（2～7月）は243人日。
 三か月間の援農先農家は、4農家。
 援農作業は、トマト誘引、片付け、さつまいもの苗植え（600本）・マルチ剥がし・張り、きゅうり誘引、ブドウ花穂切り・巻きひげ切り・摘粒・袋かけ・傘かけ等

昨年同期（5月～7月）の援農実績 159人日
 昨年の累計実績は299人日。

支部会員へのお願い

援農作業風景の写真を募集しています。
 農家さんにご迷惑をおかけしないよう事前に了解を頂いた上、休憩時間の前後の時間に撮って下さい。支部長と相談の上。

援農作業実績 (5～7月)

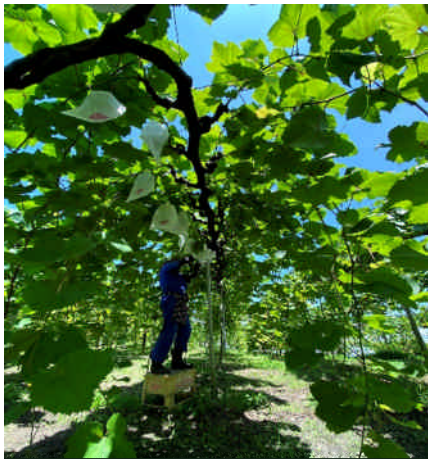
もりやま支部

三か月間（5月～7月）の援農実績は、186人日
 累計（2～7月）は336人日。

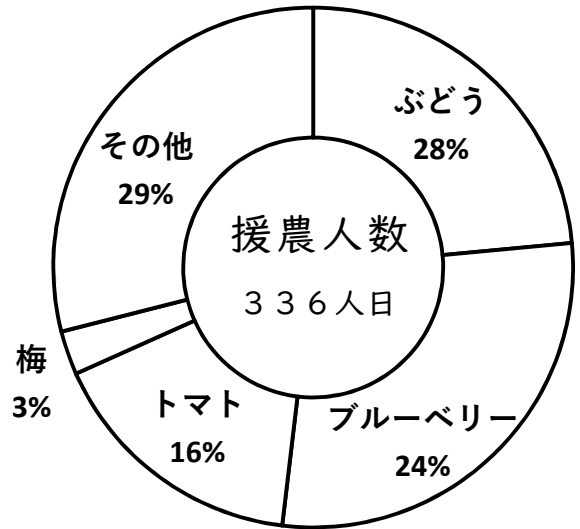
三か月間の援農先農家は、3農家。

援農作業は、ブルーベリーの籾殻まき、畝間ビニールシート張り、ぶどうの肩落とし、房作り、ぶどう枝下し・つる切り、ぶどう袋かけ、トマト収穫、へた取り、梅収穫・梅剪定等

昨年同期（5月～7月）の援農実績 108人日
 昨年の累計実績は256人日



ぶどうの袋かけ



1人日=1人1日2時間の援農作業

港・中川支部

三か月間（5月～7月）の援農実績は、181人日。
 累計（2～7月）は336人日。

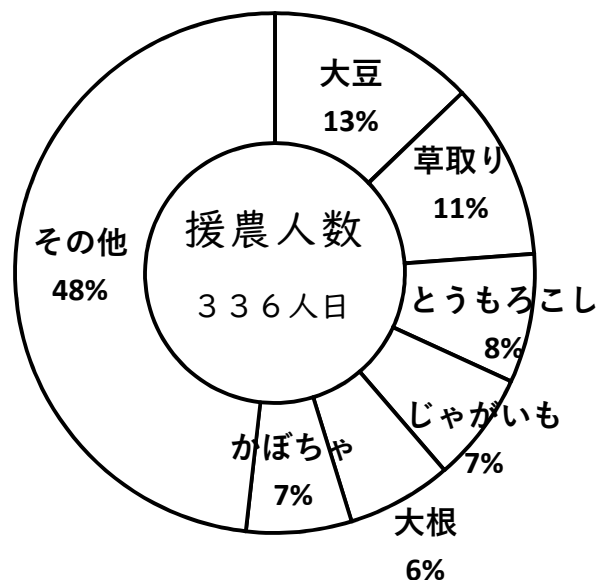
三か月間の援農先農家は、4農家。

援農作業は、枝豆の定植、選別・脱穀、ジャガイモ芽かき、カボチャ苗の定植、大根菜の覆土づくり、起耕、播種、トウモロコシ収穫、カボチャ苗の植え付け・出荷用泥拭い・サイズ仕分等

昨年同期（5月～7月）の援農実績 182人日
 昨年の累計実績は332人日



ブロッコリーの播種



1人日=1人1日2又は3時間の援農作業

農家さん紹介

プロフィール

今回は、阪野文明さんを訪問しました。

印刷会社を定年退職後、9年前に専業農家の4代目を継承。天白区山の7アールの畑で野菜ミカンを栽培しています。2017年18年天白園芸推進協議会長



：現在、ニンジン、カボチャ、タマネギを出荷。その他に長ネギ、ダイコン、ハクサイ。 野菜以外ではミカンを栽培しています。

農業は白紙からのスタートでしたが、毎日続けている作業日記を元にして、作業を行っています。

：農作業に楽な仕事は無く、種・苗作りは苦勞が多いうえ時間がかかり、また土作りは肥料同様難題で、今でも悩みながら取り組んでいます。

：先代を目標に高品質の作物作りに日々努力してきましたが、品評会での受賞数が先代を上回ったことが励みとなっています。特に2018年の熱田神宮豊年講でハクサイが名古屋市長賞を受賞したことが自慢です。

：なごやか農楽会発足時からの援農農家として、日頃の会員の支援には大変感謝しています。昨年、柿畑で援農の一環として柿狩りを行い会員の皆さんに喜んで頂いたのは嬉しい出来事でした。母も畑に出ていますが高齢となり、これからもお願いは増えると思います。どうぞよろしくお願ひします。



ニンジン



ハクサイ

Q & A (教えて、農家さん)

Q

野菜や果物について、農家さんに聞いてみたい、教えてほしいと思ったことはありませんか。

Q & A (教えて、農家さん) のコーナーを新しく作ります。

聞いてみたい、教えてほしいと思うことを募集します。

聞いてみたい、教えてほしいと思うことがありましたら、以下によりご連絡下さい。

A



メルアドをお持ちの会員
農楽会事務局 川合まで m-k@mwd.biglobe.ne.jp
様式は問いません。メールにて随時、お送り下さい。

メルアドをお持ちでない会員
評議会メンバーに会った際、口頭又はメモでお伝え下さい。
いつでも、構いません。
評議会メンバーなら誰でも構いません。

いずれの場合も、支部、期、お名前をお忘れなく。
(コーナー掲載時に匿名を希望される場合、その旨も、お忘れなく)

あいちの伝統野菜

今回は茄子です。茄子はインド東部の原産です。5世紀に北アフリカに伝わり、ヨーロッパには13世紀に伝わりましたが普及しませんでした。中国には5世紀以前に伝わったようで野菜として普及しました。日本にも古くから伝わり、正倉院古文書（天平勝宝(750)）に藍園茄子を進上したとの記述がみられます。延喜式(927年)に栽培から漬物加工の記述があり、本草和名(918年)に「奈須比」は温めると小毒があるので水で煮ると良いとの記述があります。古い歴史を持つ野菜であることが分かります。茄子は、果実の色から紫黒色、青茄、白茄、黄茄の品種に分けられ、形から丸茄、中長茄、長茄の品種に分けられます。江戸時代に品種の分化が進みました。丸茄について江戸の農業全書(1697)は「丸にして紫なるを作るべし。味甘く和かにして肉実し、料理に用い能く、煮てもみだりにとけくだけくる事なし」と記されています。京都名物の田楽料理に欠かせない鴨（加茂）茄も中型の丸茄です。各地で栽培されましたが現在は新潟、長野、福島等の限られた地域に残っています。中長茄は、関西など西日本に多かった。生産性の高い一代雑種（*1）が全国的に広く栽培されるようになったため、地域色豊かな形の茄子が少なくなっています。長茄は博多津と呼ばれた古い時代に渡来した品種と思われ九州・四国で栽培されてきました。東北の長茄は朝鮮戦役の際伊達藩が博多より仙台に持ち帰ったとされています。関東は卵形で関西に比べると小形な品種が好まれ、真黒茄がその代表です。



次号は菜類を紹介します

愛知本長なす



実は濃い黒紫色で光沢がある。長型18～20センチの食味の良い品種である。
天狗なす



果実は400～700gと大型で、果皮は薄い。果肉はやわらかく、水分を多く含んでおり、焼くのが最もおいしい。
天狗の鼻状の奇形果が発生しやすい。

写真：あいち在来種保存会提供

編集後記

コロナウイルス感染症対策の3密を避けるため、本年度の研修会は中止となりました。緊急事態宣言は解除されましたが、患者が増加しかつ重症者も増えてきました。農業は3密を避けて作業することができますが、援農の交通機関利用中とかりスグありますし高齢者は罹患すると重症化のリスク高いのでコロナウイルス感染症対策をしつつ援農をお願いします。これからも暑い日が続きますので、援農中の熱中症対策もおこたりなく。コロナの影響で作業は進みづらいますが、今期は農楽会発足20年の記念行事に向けて準備が目白押しです、皆様の協力をお願いします。

初物75日、その年初めての物を食べると寿命が75日伸びると言われ、初物は珍重されました。このため1日も早く収穫する促成栽培等の工夫が生まれます。促成栽培は、茄子が最初（*2）です。江戸の書物に茄子の早出しについて「2月中旬を播種適期とするが3月初めに雨を待って播くとかえって早く生じるとか、吸水させた種子を炉端において催芽する」などの方法を記しています。同じく綱吉の時代に「ナス・シロウリは5月節（6月6日頃）から、マクワウリ・ササゲは6月節（7月6日頃）から売出して良い」と早出しの限界を指示した記述があります。色んな調理を楽しむことができるので、大切にされてきた野菜といえます。愛知本長なすと天狗なすの2品種が愛知の伝統野菜に指定されています。

（*1）一代雑種

一代雑種のさきがけは茄子です。埼玉県農事試験場が大正13年（1924）に埼交茄（巾着×真黒）と玉交茄（白茄×真黒）の二品種を育成し種子を農家に配布しました。これが世界で初めての野菜の一代雑種で、草勢が強く栽培しやすく収量が多かった。これを契機に各地で茄子の一代雑種が育成されました。親品種を確保しておけば、採種業者は毎年同様な種子を販売できる利点もあり、一代雑種が多くなったと思われます。

（*2）促成栽培は、慶長年間（1600頃）に三保（駿河）で始まったとされています。その後江戸（寛政：1790）／今宮（文政：1825）／聖護院（天保1835）で始まりました。「一富士、二鷹、三茄子」は縁起の良い夢の順序とされていますが、諸説があるようで駿河の名物とする説もあります。この説によると茄子は、わが国第一に早く出す所（三保）の名産なりということなのです。

参考文献

日本のふるさと野菜（一般社団法人日本種苗協会発行）
日本の野菜文化史事典（青葉高著 八坂書房2013）
愛知県園芸発達史（愛知県園芸発達史編さん会）
あいち在来種保存会・野菜ソムリエの「あいちの伝統野菜」（ブログ）
愛知県HP愛・地産・アラカルト 農業水産局農政部園芸農産課

発行 なごやか農楽会事務局（水野・川合） 令和2年8月20日発行

なごやか農楽会は、名古屋市内の農家のお手伝いを主な活動とする農業ボランティアグループ。

会員は、全て農業ボランティア育成講座修了生です。